様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：１２６１３
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2013～2014
課題番号：２５８８４０２４

研究課題名（和文）20世紀アメリカ合衆国における「長い公民権運動」の歴史学的研究

研究課題名（英文）Historical Studies of "Long Civil Rights Movement" in the 20th Century.

研究代表者
武井　寛（TAKEI, HIROSHI）

一橋大学・大学院社会学研究科・特任講師（ジュニアフェロー）

研究者番号：１０７０７３６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、20世紀中葉のアメリカ合衆国の北部都市における、より良い住宅環境を求めたアフリカ系アメリカ人の活動を検討することを目的とした。第二次世界大戦後のシカゴの退役軍人向けの公営住宅で起きた二つの人種暴動の検証を通して、本研究は近隣の分散していた黒人コミュニティを結びつける役割を公営住宅が果たし、その後の黒人コミュニティの拡大の礎を築いたことを明らかにした。また、一次史料の収集及び分析を通して、住宅改革家と公民運動指導者との接点が存在していたことを確認できた。

研究成果の概要（英文）：This study aims to analyze the African Americans’ struggle for decent housing in northern cities in the mid-twentieth century America. By exploring two consecutive racial disturbances that were caused by controversies over public housing, this study shows that African American residential space extended by connecting with nearby black communities. This study also shows that public housing worked as a conjunction among disperse African American communities. Through collecting primary sources, I also clarified that there was contact between housing reformers and civil rights leaders.

研究分野：西洋史（アメリカ史）

キーワード：アメリカ史　公民権運動　人種　都市　公営住宅　ジェンダー　移民　住宅政策

１．研究開始当初の背景

近年の公民権運動研究は、1950～1960 年代の公民権運動の時代の前後にも関心が払われ、アメリカ合衆国南部以外の地域にも注目する「長い公民権運動」という視座が主流になりつつある。この用語は、2004 年のアメリカ歴史家協会での会長講演でジャクリン・D・ホールが用いてから、広く認識されるようになった。（Jacquelyn Dowd Hall, “The Long Civil Rights Movement and the Political Uses of the Past,” *JAH* 91, no.4, March 2005, 1233-1263）。「長い公民権運動」論の主な主張は、時間軸を延ばすことで公民権運動の時代的枠組みを拡大すること、人種主義的な規範や秩序は南部特有なものではなく全国的に存在していたこと、ローカルな運動に注目する必要性があること、そしてジェンダーの問題が公民権運動において重要な問題だったことなどである（藤永康政「『公民権運動』の限界と長い公民権運動論」油井大三郎編『越境する 1960 年代』彩流社、2012 年、127 頁）。つまり「長い公民権運動」とは、公民権運動を「1950 年代から 1960 年代に南部で起こった一連の運動」と捉える見方を否定し、その枠組みを時代的にも地理的にも拡大して捉えようとする見方である。近年では、例えばマーサ・ビィオンディのようにアメリカ合衆国北部を対象とする研究もでてきている。ニューヨークを事例にしたビィオンディの研究は、黒人の地位向上を目指した政治的・経済的活動を、組合や共産党との関わりや黒人の消費購買力を用いた戦術などを通して分析している（Martha Biondi, *To Stand and Fight,* Harvard University Press, 2003）。

しかしながら、「長い公民権運動」論に批判が全くないわけではない。サンディアタ・ケイタ・チャジュアとクラーレンス・ラングは、時間軸を延ばすことで公民権運動とブラック・パワーの始まりと終わりが不明確になり、公民権運動が永遠に起こっているかのような誤解を招くと批判している。（Sundiata Keita Cha-Jua and Clarence Lang, “The ‘Long Movement’ as Vampire,” *JAAH* 92, no.2, Spring 2007, 265-288.）また、公民権運動の進度は地域によって差があり、時間軸を延ばし過ぎて運動の継続性を強調するあまり、地域ごとの独自性を無視してしまう可能性があると二人は言う。確かに「長い公民権運動」と称して無批判に公民権運動の連続性を強調することで、運動の時代性や地域性が捨象されてしまうという二人の指摘は的を射ている。しかし、「長い公民権運動」論の重要な点は、単に公民権運動の前史や後史に注目することではなく、この視点を取り入れることにより、各地で展開された多様な運動の形態を浮き彫りにし、既存の公民権運動研究に再検討を迫ることにある。それにより、「長い公民権運動」論は、公民権運動期の 1950 年代から 1960 年代のアメリカ社会に対する理解に新たな知見を与える可能性がある。

以上のような近年の公民権運動研究の状況を踏まえて、本研究は時代的枠組み、南部以外の地域における運動の範囲、そして市民権とは何かといった係争点などを拡大する方向で展開されている「長い公民権運動」論の視点を取り入れながら、公正な住宅を求める運動を一つの権利の問題と捉えて検討した。具体的な地域としては、これまでも注目してきた北部のシカゴと西部のカリフォルニア州に焦点をあてた。

２．研究の目的

本研究の目的は、20 世紀中葉のアメリカ合衆国で起きた公民権運動を長期的な視座で捉えて、南部以外の北部と西部の公正な住宅を求めた活動を中心に、以下の二つのテーマに沿って検討した。第一に、シカゴで生活する第二次世界大戦や朝鮮戦争の黒人ベテランに注目し、職場やコミュニティなどの日常生活に戻った人々の間で、彼らの権利意識がどのように変化したのかを住宅問題を中心に分析した。第二に、これまで注目してきたシカゴの公正な住宅を求めた運動を、他の都市との比較の視座から再検討した。その際に西部のカリフォルニアに焦点を絞って検討した。本研究は公民権運動を長期的に捉え、主に公正な住宅を求めた運動に注目することで、近年関心の高まる南部以外の地域における公民権運動の実態を明らかにし、公民権運動研究に対する新たな知見を獲得することを目指した。

３．研究の方法

平成 25 年度は、近年の公民権運動の動向と住宅政策をより深く考察するために、公民権運動と都市史に関する資料の収集及び検討を行った。また、それと並行してシカゴの黒人ベテランに関する資料を収集し、学内の国際セミナーで黒人ベテランの公営住宅への入居をめぐる 2 つの人種騒動に関する発表を英語で行った。平成 25 年度後半には報告した内容を英語論文としてまとめ、上智大学アメリカ研究所の英文ジャーナルに投稿した。

平成 26 年度は平成 25 年度に収集した資料の分析を引き続き行い、主に公正雇用実施委員会（FEPC）の資料分析に集中した。夏にはカリフォルニア大学バークレー校にあるスペシャル・コレクションの資料収集のため、現地調査を行った。平成 26 年度の後半にはこれらの資料分析を行い、2 年間の研究をまとめて学会発表を行う予定であった。しかし、調査対象地域の資料が膨大であり、引き続き資料収集する必要があると判断したため、当初予定していた学会発表は平成 27 年度に延期することとなった。

４．研究成果

本研究では、2 年間の研究期間内において 1 回のアメリカ合衆国での史料収集調査、一次史料の収集及び分析、国内外の文献調査を行った。その結果、本研究の成果としては以下の 2 点があげられる。

第一に、主要な研究成果となる平成 25 年度に発表した英語論文では、シカゴにおける第二次世界大戦後の黒人退役軍人に注目し、住宅の入居をめぐる人種対立を中心に検討した。シカゴの公営住宅政策は導入当初より人種統合を目指していたが、実際に人種統合を試みた二つの公営住宅では、人種暴動が引き起こされた。1946 年エアーポート・ホームズ暴動では、黒人の入居を抑止する手段としての暴力の有効性が近隣の白人住民によって証明され、暴力の使用は 1947 年ファーンウッド・パーク・ホームズ暴動へ継承された。これらの人種騒動で示された暴力は、黒人の入居に反対する人々の抵抗手段の雛型となっていった。同時に、シカゴの公営住宅政策は、戦後のシカゴにおける黒人の新たな居住パターンを生み出していた。暴動後のファーンウッド・パーク・ホームズは、近隣の分散していた黒人コミュニティを結びつける役割を果たし、その後の黒人コミュニティの拡大の礎を築いたのである。このように、公民権運動が南部で展開される以前の 1940 年代中頃に、より良い住宅を求める黒人の活動が展開されており、その活動が黒人コミュニティを拡大させていた一つの要因であったことを本論文で明らかにした。

第二に、これまで公民権運動研究では注目されてこなかった人物、市民団体、政府機関の一次史料の収集を行った。なかでもフランクリン・ローズヴェルト大統領の命令のもと、1941 年に軍事産業での雇用差別を禁じて創設された団体の資料である公正雇用実施委員会(以下、FEPC と略記)のマイクロフィルム（9 リール）の収集及び分析は、本研究課題において重要であった。FEPC の記録は膨大なため、本プロジェクト期間内では全体の約 3 分の 1 の史料分析を行い、第二次世界大戦期の黒人の雇用や住宅などの問題に対する連邦政府の政策を検討した。その結果、FEPC としてとして黒人に対する雇用機会を増やそうとしても、各州及び連邦議会の政治的対立によって、当初目標にしていた活動がなかなか進まなかったことを一次史料から実証できた。

平成 26 年度においてもアメリカ合衆国カリフォルニア州へ赴き、重要な一次史料の収集を精力的に行った。本研究課題に必須となるアメリカの主要な公民権運動団体とアメリカの住宅政策に多大な影響を与えた人物のペーパーを収集した。20 世紀前半に活躍した著名な住宅改革家キャサリン・ウースター・バウアーの膨大な史料を収集し始め、今後の研究に向けて新たな見通しが発見できたことが重要な成果である。具体的には、住宅改革家と公民権運動活動家の接点が存在していたことを、手紙のやり取りや報告書等の一次資料から明らかになった。この史料を分析することで、「長い公民権運動」の一つとして、住宅改革運動を捉え直す新たな研究視点を獲得することができた。さらに、キャサリン・バウアーの個人ペーパーと並行して、全米黒人地位向上協会(NAACP)の西海岸支部のペーパーを収集し始めたことも、研究上重要な成果と言える。バウアーと NAACP のペーパーは非常に膨大なコレクションのため、今後も所有先のカリフォルニア大学バークレー校に継続的に調査に赴き、史料を収集していく。

このように、平成 26 年度は史料収集に力点を置いた年であった。しかしながら、研究成果を形にするという意味では実績をあげられなかった年であった。これまで研究代表者は、個別具体的なテーマを学会等で発表し、そこで得られたコメントや批判を組み込むかたちで論文を執筆してきた。ところが、前述したように、史料収集の面において 2 つのペーパーは予想以上に膨大なコレクションであったため、本プロジェクト期間内で全てを網羅することは困難であった。また、平成 26 年度に当初計画していたテーマである、20 世紀中葉のマイノリティに対するカリフォルニア州の住宅政策とそれに対する黒人の活動に関する学会発表は、行うことができなかった。というのも、平成 26 年度に日本アメリカ史学会から平成 27 年度秋の年次大会において発表を依頼されたため、このテーマをさらに膨らませたかたちで発表することを検討している。そのため、平成 26 年度は史料収集及び分析に多くの研究時間をあてた。これにより、住宅改革家と公民運動指導者の接点が存在していたことを史料の面で確認できたことは、本研究及び本研究を発展的に展開するであろう今後の研究においても重要な意味があった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 2 件）

①武井寛、「上杉忍著『アメリカ黒人の歴史－奴隷貿易からオバマ大統領まで－』中公新書、2013 年(紹介)」『歴史評論』8 月号、no.772、査読無、2014、pp.100-101.

② Hiroshi Takei, “The Unexpected Consequence of Government Manipulation: Racial Disturbances at Chicago’s Public Housing for Veterans in the 1940s,” *The Journal of American and Canadian Studies* No.31, 査読有、2013, pp.49-77.

〔学会発表〕（計 2 件）

①武井寛、「上杉忍『アメリカ黒人の歴史－奴隷貿易からオバマ大統領まで－』（中公新書、2013 年）合評会」、コメンテーター、日本アメリカ史学会第 28 回例会、2013 年 12 月

14 日、亜細亜大学（東京都武蔵野市）

②Hiroshi Takei, “The Unexpected Impact of Government Manipulation: Racial Disturbances at Veterans’ Temporary Housing in Chicago,” 一橋大学国際セミナー、2013 年 6 月 11 日、一橋大学（東京都国立市）

６．研究組織
(1)研究代表者
武井　寛（TAKEI, HIROSHI）
一橋大学・大学院社会学研究科・特任講師（ジュニアフェロー）
研究者番号：10707368